

報告

トランスクリプト作成による振り返りを重視したコミュニケーション教育

名城大学薬学部
半谷 眞七子

医療者のコミュニケーション教育では、医療現場を想定した体験学習が多用される。学生が体験での気づきを、次の行動の変容につなげるためには、単に体験するだけでなく、体験したことへの「振り返り」を促す学習方法が望まれる。

名城大学では、2009年から4年次実務実習事前講義演習において、学生ごとに模擬患者とのロールプレイを体験するコミュニケーション教育を取り入れている。さらに体験した録画映像を鑑賞し、その体験のトランスクリプトを作成することで、段階的に学生自らがコミュニケーションの振り返りを促す教育を試みている。

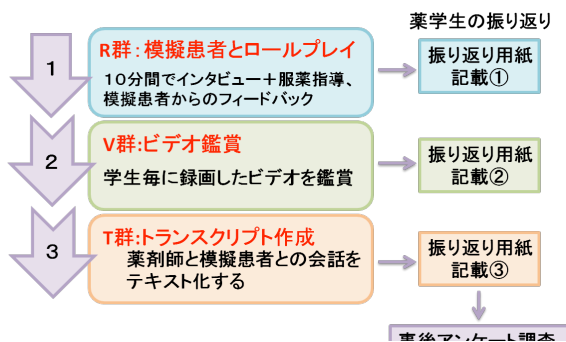


図1 コミュニケーション教育における演習プログラム

2010年に本教育を受講した4年生158名に対して、模擬患者とのロールプレイ(R群)、ビデオ鑑賞(V群)、トランスクリプト作成(T群)の各段階の演習終了時に、学生は体験を通して得た感想を、振り返り用紙に記載した(図1)。振り返り用紙は、各段階での気づきを学生自ら経時的に振り返る事ができ、また患者とのコミュニケーションのアプローチの内容に区切ることでその状況に応じた振り返りができるように工夫されている。

ここで得られた学生の気づきの内容を分析データとし、各段階における気づきの内容(4665件)について、教育効果を検討した。気づきは1つの話題単位に分け、その中で頻出する単語を抽出し、さらに気づきの内容をCarrらによる4段階¹⁾で分類した。

- | |
|-----------------------|
| レベル1: 体験の描写のみに留まる |
| レベル2: 体験の感想に留まる |
| レベル3: 体験を一般化できている |
| レベル4: 今後の具体的行動を提示している |

学生の振り返りで抽出された単語の出現頻度から、ロールプレイ、ビデオ鑑賞では非言語的コミュニケーションが頻出する傾向にあった。実際にロールプレイを体験することや、ビデオ鑑賞で自分の様子を観察することで、客観的に自身の行動を捉えることができ、「アイコンタクト」や「姿勢」等の非言語的コミュニケーションの気づきにつながったと推察された。またトランスクリプト作成では言語的コミュニケーションが頻出する傾向であった。模擬患者との会話をテキスト化することで、自分の会話の内容を意識して言語に表すことで、「オープンクエスチョン」や「言葉使い」等の言語的コミュニケーションの気づきにつながったと推察された。単に模擬患者とロールプレイを行うだけでなく、その内容のビデオ鑑賞、トランスクリプト作成の3段階の学習方法が、異なるコミュニケーションスキルの獲得につながる事が示唆された。

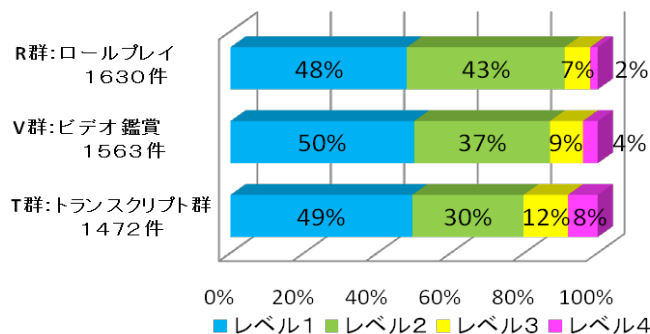


図 2 学習段階別における気づきの内容を振り返りレベル別に分類した割合

ビデオ鑑賞を取り入れる学習方法は、学習者が自分自身を客観的に観察でき、改善すべき点を見出す等、実習経験者自らのステップアップへつなげる方法であり、コミュニケーション能力のみならず、様々な臨床知識を習得できる簡便な学習方法と報告されている^{2,3)}。また田口ら⁴⁾は、模擬患者とのロールプレイ・フィードバック後に、その録画ビデオを併用することで、客観的な視点で自らの行動を観察する機会を得ることができ、メタ認知を磨く上でも極めて有効であると報告している。また学生個々にビデオ鑑賞を行った後に、その模擬患者と自分のロールプレイの様子について、会話をテキスト化するトランスクリプト作成を行うことで、レベル 3、4 の深い振り返りが増加した(図 2)。これは、録画映像を繰り返し見て会話の内容を可視化し、具体的な話し方の癖、会話の流れを顧みる等、単なる鑑賞よりも、自分の患者への行動について異なった視点で自らを振り返ることで、より深く自分の行動を振り返ることができた結果と思われる。さらに患者に対する今後の態度・行動の変化にも影響を与えることが推察された。振り返りレベルが深まることは、メタ認知能力、すなわち自分自身の行動を把握することができる能力を高めるのに有効である⁵⁻⁷⁾。

今回対象とした学生は、この演習終了後に 5 カ月の臨床実習を行うが、そこでは、臨床現場の問題について自身で物事考え、問題を解決していく能力が必要とされる。本学習では、自分自身をじっくり振り返り、そこで挙げられた事象を異なる視点で見ることによって、より具体的な改善策を考える必要があることを学生に教示したことが示唆された。今回のトランスクリプトの作成では体験を一般化できているレベル3、今後の具体的な行動を提示しているレベル4の振り返りは20%に留まった。この点については振り返り用紙の工夫、教員からの働きかけ等、さらなる学習方略の検討が必要であると思われる。

[参考文献]

- 1) Carr S, Carmody D., *Med Educ.* ,40,768-74 (2006).
- 2) 三好淳子,他,医療薬学,31,233-237(2005).
- 3) 森岡淳子,他,医療薬学,33,132-140(2007).
- 4) 田口則宏,他,日本歯科医学教育学会雑誌,25,115-121(2009).
- 5) 上平崇仁,東京工芸大学芸術部紀要,10,9-17(2004).
- 6) 瀬田和久,池田満,人工知能学会先進的学習科学と工学研究会資料,48,13-20(2006).
- 7) 市川伸一,他,“認知心理学4-思考-”,市川伸一編,東京大学出版会,東京,1996,pp.107-180.